



園地、樹ごとの 着果管理

4月に入ると芽・根などが活動し始めます。園地の観察を行い、計画的に管理を行いましょう。

《開花前の管理》

近年、樹ごとの花のバラつきが目立ちます。表年の樹、裏年の樹を判断し、樹の状態にあった管理を行ってください。平成29年産は表年が予想されるため、花が多いと思われる樹では、隔年結果は正や高品質果の栽培を目的に摘蕾、摘花を早い時期から行いましょう。

《葉面散布》

充実した子房を作ることと品質の良い果実生産につながります。花の充実のために、花芽が見える頃から開花までの間、尿素500倍を5〜7日置きに3回程度葉面散布しましょう。

《病害虫防除》

そつか病は、新芽が展葉する時期から

感染が始まります。発芽時期は地区や樹勢などで変わるため、園地をよく観察し新梢が1cm程度に伸長する頃を目安に防除をしてください。また発病している枝葉は剪除し、園外に持ち出してください。

また、冬期にマシン油を散布しなかった園地では、気温の上昇とともにミカンハダニの発生が見られますので防除を行います。

4月中旬

・マシン油乳剤(97%) 100倍

・新梢1cm伸長時(4月下旬)

・デランフロアブル

1000倍(30日13回、

かぶれが心配な方はマネージDF

4000倍(30日13回)

《苗木の定植》

植えつけた苗木の生育のよし悪しが今後の経営に影響するため、適切な植付け・

苗木の管理を行います。

①苗木の植え穴に1樹あたり堆肥10kgと溶燐1kg、苦土石灰2kgを投入し、土とよく混和しておきます。

②直根の長い部分を切り、根の傷んだ所を切除、巻き根は取り除きます。

③1年生は接木部から30cmくらいの長さで切り返します。輪状芽がある場合は、輪状芽の下で切ってください。2年生は夏芽が複数出ている中で充実した枝を1〜2本に整理し、先端は枝の充実した部分で切り返します。

④植え付けは深植えにせず、接木部は地表面から見えるくらいとします。植え付け後は、十分にかん水を実施してください。乾燥防止のためワラや敷き草等で被覆し、倒伏防止のため支柱で固定しましょう。



果樹林産センター
小杉 真啓